

「信濃教育」目次集

毎号に登載したものの口絵、今、教師や子どもは、本会の動き(前月号)、インタビュー、編集後記

〔標題〕	〔著者名〕	〔著者名〕	〔著者名〕
四月(一五七七号)			
巻頭言「道徳科」元年			
巻頭言 三十年度の出発に当たって思うこと			
教育会の存在と自主研修の意義を考えたおぼろげ			
後藤 正幸			
平成三十年度 事業計画概要			
テーマ 私を支える「ことば」			
どうこい どうこい	阿部 恵二	依田 和夫	島田 岳彦
真の勇者たれ	新井いずみ	石井 明美	石塚 里子
自分は悪者になっても	黒澤 明	母の声と口癖	中村三都里
同じじゃなくていいんじゃない	石坂 凛人	わたしを支えてくれている人との出会いとい	笑顔になれる言葉たち
衝撃的だったM子さんの言葉	村上 晃司	いただいた言葉	どんな教師になりたいか
幹になる言葉	寺沢 悦子	私を支えるころの風景	わたしをささえることば
まつすくに向き合うこと...	林 美保子	PAX MUNDI PER LINGUAS	私をつくる「ことば」
		心に残る言葉	私の心を奮わせた言葉
		ことばのかたち	陸上競技は団体競技
		初心を忘れない	一期一会
		子どもからのほんわか言葉・ドキッと言葉	初心忘るべからず...そして一期一会
		私に心に留めている言葉	平成二十九年「信濃教育」目次集
		「学び合い」との出会い	
		心がけていること	
		私がこたわった一言	
		「ありがとう」という言葉に支えられて	

〔著者名〕	〔著者名〕	〔著者名〕	〔著者名〕
人を变える力	依田 和夫	島田 岳彦	
母の声と口癖	石井 明美	石塚 里子	
わたしを支えてくれている人との出会いとい	笑顔になれる言葉たち	どんな教師になりたいか	わたしをささえることば
私を支えるころの風景	PAX MUNDI PER LINGUAS	心に残る言葉	ことばのかたち
初心を忘れない	子どもからのほんわか言葉・ドキッと言葉	私に心に留めている言葉	心がけていること
私がこたわった一言	「ありがとう」という言葉に支えられて	「あまちゃん」と「彼こそが海賊」	教師としての在り方
		子どもと共に感じ、乗り越えていく	学級づくりで私が大切にしていること
		学級づくりで私が大切にしていること	ユニバーサルデザインを取り入れた学級づくり
		機能する学級目標をつくりたい	子どもと共に歩む教育「アドラー心理学からの実践」
		「つながり」づくりは「学級づくり」	芯のぶれない学級づくり
		一人一人の子どもに寄り添う	一人を大事にする学級づくり
		一人一人の子どもに寄り添う	担任としてできること
		「怖さ」と「上司」	私にとっての「思うように」を求めて
		子どもたちの未来のために	学級づくりの原点を考えて

年間	宮澤 明彦	授業改善への取り組み〜教えていただいたことから〜	阿藤 茜	ふるさとの光景に思う	伊藤 靖徳
	小林 千景	目の前の子どもが教えてくれたこと	畔上 達也	地域と子どもたちを引き合わせ、共に学ぶ	白鳥 美波
	渡邊 里恵	元気が出る授業	東 雅恵	おいしい雲よ 一 根ふかぶかと	太田 真美
	信州社会科教育研究会木曾大会の授業者を経験して	「楽しい授業」から「楽しく学ぶ授業」へ	山岸 健司	横断歩道でのあいさつ	平野 弘蔵
	清水 敬祐	保護者と創る授業〜発達障がいへの理解〜	河合旗与昂	七月（一五八〇号）	
	私の授業をかえた一言	ICTを活用した授業実践	織田 裕二	巻頭言 新任者教育懇談会	
	私の作戦	ICTを扱った「できた」「もつとやってみよう」とを指して	征矢 亮	巻頭言 学習活動を通して資質・能力を培うとは何をする事なのか 学習様式の発達の構造から解き明かす	
	一一五時間でできること	私の「授業」を見つめなおす	宮尾 匠	テーマ「学力」を考える	
	第六十二回長野県国語教育協議会を終えて	授業は終わりなき旅	浅野美土里	ほんものの学力を育てる深い学びをどう創るか	
	小林 順	子どもとともに	倉科 宗和	自立した学び手を育む〜全教科・全授業で取り組む協働の学びを軸とした授業〜	
	橋 佳乃子	授業の中心に	村澤 陽介	「乗り入れ」における効果的な授業に向けて	
	宮下 聡	「わかった」「できた」「もつとやってみよう」とを指して	北澤見佳子	地域の教育資源を活用しプログラミングを導入した授業実践への歩み	
	魅力ある英語授業を目指して〜	自分の考えや気持ちを生きて表現する力をつけるために	古屋 哉子		
	ハブとスポークのように	力をつけるために	吉國 由紀		
	更新される私の物差し	私のもと	古林阿沙子		
	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業	尊敬する先生方の言葉	田邊 志保		
	角田 健史	青年教師のつぶやき			
	根石 準也	教師という仕事を選んだ自分			
	駿村 俊一				

自分の言葉で語り、仲間と学び合い共に力を高めていく生徒の育成を目指して	堀内 英里	方々地域と連携した鑑賞学習の三年間の継続を通して〜	長谷川 功	風景の感情	古屋 治
学力向上「田中小スタンダード」を作ろう〜	樋口亜紀子	八月（一五八一号）		ある先生との出会い	池田 一貴
やっつよかった授業研究を求めて〜	巻頭言 縁の瓦公開	巻頭言 縁の瓦公開		子どもたちの笑顔のために	羽入田 遼
どの子も分かる授業づくり〜授業のユニバーサルデザイン化の視点を大切にしたい授業づくり〜	藤森 東	善題言 言語習得につながる授業づくりを！		大切なことは全て子どもが教えてくれた	金井也寸志
人との縁でできかき生きる	藤森 東	善題言 言語習得につながる授業づくりを！		「つながる」ってどういふこと？	長谷川美紀
『物理』の『教員』になるきっかけをくれた先生	勝岡 桃子	生徒が持っている英語を総動員する活動をしませんか		句会	山中 悠子
変わらない自分でのこと	布山 朋和	新小学校学習指導要領における「外国語活動」「外国語」の指導 移行期間を通して取り組み、理解していきたいこと		いずみの里への思い	佐々木啓佐義
激動の食育の道	塩嶋久美子	これからの中学校の英語教育		我が身のあり方を問うたこと	木下 潤児
すこいよ！Aさんがんばったよ！	北沢彰太郎	四技能を統合した小学校英語の授業づくり〜互いを認め合うことを通して〜		「自分事」へと深化する三中道徳の挑戦	三中道徳研究チーム
忘れられない日々	赤羽 成美	小諸市立東小学校英語部会		九月（一五八二号）	
迫られる授業改善	小椋 信一	上田市の小学校外国語教育〜モデルカリキュラムの始動〜		巻頭言「感性 本物の賢沢、人の繋がり」	
おいしい雲よ 二 芽はつらつと	鋤柄 郁夫	新たな英語教育に向けて		巻頭言 地域とともにある、信頼される学校を目指して〜まちづくりとひとづくりのگران	
素敵なおばあちゃん	水澤 良光	コミュニケーションの楽しさを実感できる外国語活動〜伝え合いの工夫を通して〜		ドデザインに基づく新しい教育のスタイル〜	
第二十一回教育研究論文・教育実践賞 特選					
論文					
生徒が教えてくれた原爆の版画の見方・感じ					

「もの」から「こと」へと変容する子ども・教師・地域の学び 安達 仁美  
キッズお仕事チャレンジ子どもたちに仕事の魅力伝えます 西村 政和  
コミュニティ・スクールが支える九年間の義務教育 龍野 正和

地域から学校へ 学校から地域へ 地域（公民館活動）との協働による学校づくり 青木 辰夫

人と人がつながる学校を目指して 鈴木 康貴  
長沼小学校コミュニティスクール「りんごっこ支援の会」の紹介 長野市立長沼小学校  
今実現している二十年前の卒業論文 恩師高橋先生とスクールソーシャルワーカー 伊藤 尚哲

自立へと誘う 小野光太郎  
基本を大切にすること、そして… 下平 健吾

夢真つ最中 小林 祥子  
教わる側の気持ちを忘れずに 塚田久美子  
価値観の更新 望月 翔太  
かつて逃げ出した自分 幅下 慧

おいしい雲よ 五花あざやかに 鋤柄 郁夫  
住みやすい世の中にするために 清水 常寿

十月（一五八三号）  
巻頭言「わたしたちの道」と「わたしの築くみちしるべ」 特集 第百三十二回 信濃教育会総集会  
（小泉上田大会）

総集会スナップ 開会式 後藤 正幸  
確かなボトム存在 来賓祝辞 三輪 晋一 花岡 利夫  
第二十一回教育研究論文・教育実践賞受賞者一覧（特選・準特選・入選） 学びを問い続けて 佐伯 胖

『教育会の意義や役割を考える』  
信濃教育会の事業に参加・参画して、 飯澤 隆 佐々木哲也 矢口 紘史

閉会式挨拶 村田 茜 西川 仁子 宮下 幹敏  
十一月（一五八四号）

巻頭言 問われる人間としての選択 特集 わがふるさとの教育を支えた人々 教育史年表 与良熊太郎  
いまこそは与良熊太郎 与良熊太郎研究委員会 佐久教育会

長谷川五作 長谷川五作先生 人物特集編集委員会 更埴教育会

田中高光 田中高光 公正無私に、地域・教育会のために力を尽くした 田中高光先生 「わがふるさと」の教育を支えた人々」 篠原菊彌 自己更新の学力を育むために「教室の改造」を訴えた 篠原菊彌先生 篠原菊彌先生執筆委員会 諏訪教育会

徳科」授業改革 杉中 康平

「自己を見つめ、友と関わりながら、広い視野から多面的・多角的に考え、議論する道徳」の時間を目指して 道徳教育研究推進校 飯山市立城南中学校 「チーム一中」としての『道徳科』を目指して 上田市立第一中学校 道徳係会

十二月（一五八五号）

巻頭言「徳育の障壁」 養護書 連続性のある多様な学びの場としての「通級による指導」 通常の学級との学びの連続性に焦点を当てて 笹森 洋樹

テーマ 特別支援教育について考える 授業のユニバーサルデザイン化と新学習指導要領 小貫 悟

本人の意思を受け止め、集団参加への意識を高めていく支援について 楠田 真也  
授業のユニバーサルデザイン化の成果と課題 中学校の通常学級の取り組み 島脇 謙

通常学級における特別支援教育を考える特別な支援を要する子どもたちが、笑顔で参加できる環境をめざして 荒井 明美  
飯山養護学校特別支援教育連携協議会 つながる、 市川由紀子

児童生徒の自立をめざしたインクルーシブ教育システムにおける一人一人の教育的ニーズに応じた支援のあり方（三年次） 信濃教育会 特別支援教育研究調査委員会  
小泉上田 上田養護学校 依田 真澄

松本市 芳川小学校 両澤 佳代

一つ一つの出会いを大切に 学級経営で大切にしたいこと 出会えたことに感謝 こんなわたしでいたい みんなでえがお 一ヶ月間の海外留学から 「言葉」と「私」

「言葉」と「私」 おいしい雲よ 六 実たわわに 人を恋うる歌 講演記録 生涯学習センター 信濃教育会・生涯学習講座「哲学の道」 『西田幾多郎 生きることと哲学』を読む 宗教

一月（一五八六号）  
巻頭言「去年今年賞く棒の如きもの」 養護書「特別の教科 道徳」（道徳科）において心掛けたいこと テーマ「特別の教科 道徳」を考える

「社会的リテラシー」育成に焦点をおく「道

徳科」授業改革 杉中 康平

徳科」授業改革

「自己を見つめ、友と関わりながら、広い視野から多面的・多角的に考え、議論する道徳」の時間を目指して 道徳教育研究推進校 飯山市立城南中学校 「チーム一中」としての『道徳科』を目指して 上田市立第一中学校 道徳係会

道徳を通して自分自身とも向き合つ これまでも これからも 上田市立豊殿小学校 道徳研究グループ 『ちくまの心』に向かう道徳教育 鮫島光太郎 一身上の都合により、卓球します 次世代に伝えていくべきことは何だろう 古川 智基

今亡きM先生を想うとき 倉田みゆき  
私らしく 宮澤 妙子  
教師のやりがいは「出会い」にある 熊谷 結子

山と私 白鳥 友樹  
原点に戻って 渡邊 佳代

おーい雲よ 七雪しんしんと 鋤柄 郁夫	小平 伴紀	な学校づくり	藤川 大祐
人との距離感 原 幸子	中村 聡士	子どもが考え、子どもから発信！インターネット・SNS等を安全・安心に利用するための須坂市生徒会サミットの取組から	
講演記録 生涯学習センター	「結ぶ・繋ぐ・拓く」研修を目指して		
信濃教育会・生涯学習講座「哲学の道」	宮坂 建樹		
『西田幾多郎 生きることと哲学』を読む	小中連携しての研修会	岡澤 寿穂	須坂市四中学校
「政治・歴史・文化」の問題をめぐって	一人一人にとって安心した居場所となる学校を目指して	西澤ゆかり	安全教育 気づき、考え、行動できる児童の育成！気づきの積み重ねを通して
		小林志津代	地域と共につくる防災教育
二月（一五八七号）		学び合いを生む校内研修（十五分研修を中心）	松本市立旭町小学校
巻頭言 V W		子どものためにある研修を目指して	「共に認め合い学び合う人間関係づくり」
巻頭言 より深い省察をもたらす授業検討会のために		学びの土台を見つめて	「共に認め合い学び合う授業創り」をめざして
渡辺 貴裕	下平 良洋	職員の間僚性を高めるために	中村 新治
テーマ 我が校の校内研修	小田切和子	三月（一五八八号）	中村 新治
「当事者意識」から生まれる校内研修	阿部 裕一	巻頭言 平成最後の年度末に	高田 詩央
鈴木 雅幸	中村 純也	巻頭言 生き抜く力を育むこれからの学校安全	征矢野英輝
共に学びつながりあう研修	高山 和浩	テーマ 安全・安心な学校づくり	小川亜希子
高田 和浩		スマートフォン・SNSに関する安全・安心	宮島 隆
専門性を高める研修と職員の学び合い			私のお小さな夢
伊藤 尊夫			「平凡への強制」からの脱却
ピンチをチャンスに変えた校内研修			心に残ること
藤本 直樹			ことものせかい
池上 浩人			おーい雲よ 八空つららかに
「詩境」をもとめて			佐々木絵理香
生徒と教職員が体験しながら学ぶ防災教育			鋤柄 郁夫
			竹内 仁一